

あつという間の17年間、浦高さんに

●私の会員スピーチ・その4

9月2日の春日部地区浦高会で行った会員スピーチ「同窓会にどっぷり浸かって17年」の続きです。



5. あつと言う間の17年、今日も浦高さん?

◆創立10周年記念事業 ⇒ 環境づくり

浦高百年の森に対して、鎮守の杜を

「春日部麗しの杜事業」では、春日部市の川久保公園に4年間で86万円(県補助金55万円)で89本の植栽を行いました。

平成30年度 春日部地区浦高会 講話資料

5. あつと言う間の17年、今日も浦高さん?

◆ 創立10周年記念事業 ⇒ 環境づくり 浦高百年の森に対して、鎮守の杜を

※ 実施できた大きなポイント：県の環境部等から補助金や苗木をいただけたこと
 今から6-7年前になりますが、開校部夫・浦高校長、後の埼玉県教育長が浦高校長を招かれていた時代に「三兎を追え」という言葉がありました。実は、私も三輪会長から同じように三つの課題を出されました。それは、2009年の12月の幹事会の席上だったと思います。「春日部地区浦高会も、バス旅行や東京リバークルーズなど新しい企画を行ってきたことで、会員相互の親睦も随分と深まったと思います。全体同窓会でも110周年記念事業の『浦高百年の春』事業をスタートして社会貢献をはじめたように、そろそろ春日部地区も創立10周年を迎える訳ですが、社会貢献活動に取り組んでみたいと思うのです。何か企画を立ててほしい。ただ、会員が喜んで参加できるような事業であること、会計が困らない程度のことと考えてほしい」という、まさに私にとっては「三兎を追え」の課題が出されました。そんな時に、仕事上で付き合いのあった埼玉県職員が農林部次長になり、「埼玉県に緑化を進める団体に対して50万円まで10/10補助できる制度があるので、春日部市で補助金を使ってほしい」という連絡をもらいました。これで資金のメドは厚くなりそうだなと思いました。そこで、春日部市内で県補助金を活用して緑化推進を図ろうと企画し、正副会長会議で協議すると、「全体同窓会が環境をテーマとして荒川の源流の山を守り育てようというコンセプトなので、県東部に位置する春日部の吉利根川沿いで植栽を通じて環境保全に努めようというのは大義がある」という結論に達しました。

- ① 植栽できる場所の選定 ⇒ 市所有の公園
- ② 植栽の資金の確保 ⇒ みどりの埼玉づくり県民提案事業(みどりの活動支援補助事業)
- ③ 地元自治会との協働 ⇒ 自治会との協働
- ④ 4年度事業 初年度(2010年度)植栽53本 費用652,700円(県補助金55万円)
 2年度(2011年度)単対のみ 費用0円(県補助金なし)
 3年度(2012年度)植栽12本 費用100,000円(県補助金なし)
 4年度(2013年度)植栽24本 費用115,500円(県から苗木24本)



14

◆ 創立15周年記念事業 ⇒ 人づくり

奨学財団に対して、世界の音楽を

創立15周年記念事業は、同窓会本部が創立120周年事業として奨学財団を設立してグローバル人材の育成に励むことを目指しているのに対して、春日部市が標榜している「音楽のまちづくり」に合わせ春日部市の人財づくりや地域力向上に適合する「音楽の都ウィーンからの贈り物」事業(コンサートと出張指導)を企画しました。

今から考えると瓢箪から駒のような事業でした。きっかけは、19回卒業でウィーン在住の富田千種様との偶然の出会いから始まりました。富田様が春日部高校の音楽ホール(埼玉県内でも屈指の音楽ホール)で一度歌ってみたいというお話を受けたことから始まりました。

平成30年度 春日部地区浦高会 講話資料

◆ 創立15周年記念事業 ⇒ 人づくり 奨学財団に対して、世界の音楽を

※ 実施できた大きなポイント：富田様との出会いと市から補助金をいただけたこと
 創立15周年記念事業は、今から考えると瓢箪から駒のような事業でした。きっかけは、19回卒業でウィーン在住の富田千種様との偶然の出会いから始まりました。富田様が春日部高校の音楽ホール(埼玉県内でも屈指の音楽ホール)で一度歌ってみたいというお話を受けたことから始まりました。事業の組み立てを考えた、春日部地区浦高会の15周年記念事業と位置づけ、まずは会員の皆さんに富田様の歌声を知ってもらうために、本番前のコンサートを企画しました。2014年10月に知り合いの教会礼拝堂にて「チャペル・コンサート」として開催し60人の参加をいただきました。次に収支予算を組んだところ60万円~100万円ほどかかりそうだと試算が出たことから、春日部市に補助金申請を行い、「音楽の都ウィーンからの贈り物」という3年間の継続事業という位置づけを得ることができました。

「音楽の都ウィーンからの贈り物」企画書

- 【背景】
 春日部地区浦高会(創立2001年9月)では、創立15周年(2016年)に向けて、2015年春から植栽年をわたり「春日部市の人財づくりや地域力向上」の面での地域貢献活動を実施してまいります。
 春日部市では、2010年から「かすかべ音楽祭」を開催し、市をあげて「音楽のまちづくり」を推進しているところあり、また春日部市内の中学校・高等学校では、合唱や吹奏楽が盛んで、各中学校が全国大会に出場し好成績を収めている状況にあります。
 【事業目的】
 ・上記背景を踏まえて、私たちの同窓生であり、現在もウィーンを中心としてヨーロッパ各地で活躍されている声楽家・富田千種氏(元・ウィーン国立歌劇場バリトン歌手)や、2年目からはウィーン・フィルハーモニー管弦楽団の奏者などをお招きして、多様な中高生や市内外の愛好家に世界最高峰クラシック音楽を体験してもらうことを目的とします。
 ・こうした体験の中から、春日部市から世界最高峰を目指す音楽家が輩出できる環境をつくることにより、補助期間の3年間で春日部市の知名度を上げることを目的とします。
 【事業の進め方】
 1. ウィーンの音楽に出会い、興味を持ってもらう段階
 ⇒ コンサートを通じてウィーンの音楽と音楽環境に興味を持ってもらいます。
 2. 中高生や合唱サークルの方々から世界レベルの指導を受け、技術を身に付ける段階
 ⇒ 富田氏等による出前指導により、中高生や合唱サークルの皆さんに世界レベルの技術を自ら体験してもらいます。
 3. 世界レベルの音楽を春日部市内で楽しむ段階
 ⇒ 2年目以降は、ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団の奏者を招いて世界最高の演奏を春日部市内で体験できるコンサートを実施します。

15

平成30年度 春日部地区浦高会 講話資料

◆ 「音楽の都ウィーンからの贈り物」事業はコンサートと出張指導

- 2015年の事業では、6月のコンサートの他に埼玉県立春日部高校グリーククラブに2回の音楽指導(延べ47人)、春日部市立緑中学校(延べ350人)、豊野中学校(延べ530人)では富田様から日本を離れて音楽の都へ、世界の音楽、オペラと歌曲の世界、ウィーンのまち、世界で活躍することなどについて講演を行っていただきました。
 2016年10月のコンサートの他に、埼玉県立春日部高校グリーククラブに2回の音楽指導(延べ41人)中学校3校(延べ1,023人)での講演と音楽指導を行いました。
 2017年10月のコンサートの他に、中学校3校(延べ、一般市民対象(46人)の音楽指導を合計4回実施しました。
 ① 会場確保と観客数 ⇒ 2014年10月：教会礼拝堂(60人/70席)
 2015年6月：春日部高校センターアルホール(220人/420席)
 2016年10月：春日部市正風館ホール(463人/502席)
 2017年10月：春日部市正風館ホール(471人/502席)
 ② 運営資金の確保 ⇒ 春日部市地域力アップ提案事業
 ③ 出演者の確保 ⇒ 2014年：富田千種様(バリトン)、西堂恵麻様(ピアノ)
 2015年：富田千種様、本田ゆりこ様(ソプラノ)、白取晃司様(ピアノ)
 2016年：ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団でヴィオラ奏者のセバスティアン・フュリンガー様、ウィーン国立音楽大学講師でピアノのポール田中七子様、富田千種様(バリトン)
 2017年：バーデン歌劇院契約歌手のソプラノのシルヴィア・リーザー様、富田千種様(バリトン)、東京音楽大学伴奏助手の白取晃司様(ピアノ)
 ④ 4年度事業 初年度(2014年度)費用130,000円(聴衆から献金6万円)
 2年度(2015年度)費用576,579円(市補助金53万円、入場無料)
 3年度(2016年度)費用987,887円(市補助金45万円、入場2千円)
 4年度(2017年度)費用1,105,751円(市補助金48万円、入場2千円)



16

- ・2014年10月：教会礼拝堂(60人/70席)
- ・2015年6月：春日部高校センターアルホール(220人/420席)
- ・2016年10月：春日部市正風館ホール(463人)

/502席)

・2017年10月：春日部市正風館ホール(471人

/502席)

平成30年度 春日部地区浦高会 講話資料



(16年10月、ウィーンフィル来朝)



(17年10月、2人の歌手)



(17年10月、スタッフ全員)

◆2018年度は野田と浦和で開催

2017年度で3年間の市補助金がなくなったことと、事業実施にエネルギーをあげ過ぎてきたことから、2018年度の「音楽の都ウィーンからの贈り物」事業(コンサート)は休止と考えていたのですが、野田市の方からどうしても開催したいという要請を受けて、9月29日(土)に野田市榊のホールにて春日部地区浦高会後援事業として開催します。また、浦和麗和会の後援をいただき、10月7日(日)にも同じ曲で講演が決まりました。

◆次の20周年記念事業は

さて、次は2020年に創立20周年となるわけですが、正直に申し上げてまだ何も考えていない状況です。これまでも全体同窓会の周年事業テーマに合わせて参りましたので、現状でいけば「人材育成」でしょうか。ぜひ、20周年事業も楽しい企画を組んでみたいと考えています。

6. いつの間にか「浦高さん」

◆29年度の日程

Table with 5 columns: Date, Event, 春日部地区, 浦高25期会, 常任理事, 「麗和」編集, Others. Rows include 4月 久喜小旅行, 5月 総会後の懇親会, 6月 幹事会, 7月 百年の森, 8月 活性化委員会, 9月 総会・出張講座, 10月 コンサート, 11月 望年会, 12月 幹事会, 1月 常任理事会, 2月 芸術交歓会, 3月 小旅行下見.

◆2018年度は野田と浦和で開催

2018年度は、9月29日(土)に野田市榊のホールにて春日部地区浦高会後援事業として開催します。また、浦和麗和会の後援をいただき、10月7日(日)にも同じ曲で講演が開催されます。

◆次の20周年記念事業は

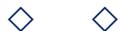
さて、次は2020年に創立20周年となるわけですが、ぜひ、20周年事業も楽しい企画を組んでみたいと考えています。



6. いつの間にか「浦高さん」

◆29年度の日程

現在の役割は、春日部地区浦高会での企画広報担当、浦高25期会事務局、同窓会常任理事、同窓会活性化検討委員会委員・法人化小委員会委員、「麗和」編集委員会委員、ホームページ委員会委員で、かつて鳥井先輩が「今日も浦高さんですか?」と言われていると伺いましたが、今は私が言われています。



7. 私にとっての浦高同窓会とは

◆私にとって同窓会とは ⇒ 好縁社会の代表格

私にとって同窓会とは好縁社会の一つのグループであります。それぞれのスキルやネットワークを活かして人のために役立つことができればと思います。

平成30年度 春日部地区浦高会 講話資料

◆春日部地区浦高会

私が同窓会活動に誘われた18年前、全体同窓会の常任理事で春日部地区浦高会の副会長である鳥井さんが、奥様から「今日も浦高さん」と言われるほど、浦高の集まりに出かけていたとおっしゃっていましたが、最近の私はまさに鳥井さんの後を追うようになっています。

◆浦高25期会

皆様もご存じのように、浦高同窓会では選任になった卒業生の任期が5月に開催される全体同窓会総会後の後援会と懇親会の幹事を行うという伝統があります。今年は28回卒業生たちで、私たち25回卒は4年前に任期で幹事を努めさせていただきました。私たち25期会は、2000年の頃に同窓会を開催したことがあるのですが、なかなか集まらず、その後幹事も決まらずにきていました。6年前に、私が常任理事に指名されたため何とかしてはと思い、1年に1回新年会を開催していた10名くらいが母体となって、同窓会の準備会を設立しました。名簿を整理して360名近くに連絡を取り、100名程度の所在が確認できました。世話人代表に明治大学の元副学長の藤江高爾さん、事務局が私、会計に埼玉県職員だった川越真さんをつとめて年2回の同窓会を開催しています。年2回の新年会と忘年会の他に、今年は4月に浦和一女OGとの「交歓会」を開催しました。

◆全体同窓会常任理事

6年前に地域同窓会から常任理事を推薦する制度ができ、春日部地区浦高会から推薦をいただき、常任理事になりました。当時、鳥井さんが常任理事でいらした関係もあり、いろいろなことを勉強させていただきました。その後、川野前会長の下で常任理事を中心とした「同窓会方策検討委員会」に参加させていただきました。2年間に亘り会則改正などに携わらせてもらいました。木村会長の下での2年間は、「同窓会活性化委員会」が作られており、ここでも同窓会活性化のために議論をさせていただいています。

◆会報「麗和」編集委員会

8年前に会報「麗和」編集委員会に携わるようになりました。こちらは、編集委員の星野和央さん(4回卒)、昨年の夏に亡くなりましたが田中眞さん(11回卒)などの大先輩に引っ張られて、会報のなんたるか、編集のなんたるかを勉強させていただいています。星野さんは「さきたま出版会」という出版社を経営されている方であり、故・田中さんは毎日グラフの編集長を経て10年間に亘り宮崎県立大学でメディア論を教わっていた方でして、素人の私で良いのかということも最初は気になっていましたが、まあ、読者の立場から同窓会報で読んでみたいこと、今、同窓会がどんな動きをしているのかなどについてお知らせしていきたいと考えています。

◆ホームページ委員会

同窓会のホームページについては、前事務局長の船井様の時にリニューアルされたのですが、コンテンツが細かく区切れ過ぎていて、なかなか更新されないという問題がありました。また、事務局は事務局長1人でかなり忙しくて情報をさばき切れていなかったという問題もありました。そこで一昨年、藤野事務局長に代わったところで、船井前事務局長に委員長をお願いして、

平成30年度 春日部地区浦高会 講話資料

ホームページ委員会を改編し、藤野さん、船井さん、私の3人でそれぞれが持っているネットワークで寄せられた情報をできるだけ迅速に同窓会ホームページに掲載するという方針に変更しました。私の場合は、湘南浦高会の平井様をはじめ、多くの地域同窓会の皆様から情報をいただくことができ、ホームページ委員としての仕事をさせていただいております。

こんなことで、自宅でも浦高麗和会報や地域でも同窓会関連の仕事や打合せがあり、10数年前に14歳先輩の鳥井さんは奥様から「今日も、浦高さんですか?」と良く言われていたそうですが、今は私が奥様から「今日も、浦高さんですか?」と言われるようになっています。

7. 私にとっての浦高同窓会とは

◆私にとって同窓会とは ⇒ 好縁社会の代表格

そろそろ時鐘がやってきました。本日のお話をまとめたいと思います。私にとって同窓会とは、好縁社会の一つのグループであります。好縁社会という言葉は、皆様もご存じのことだと思いますが、作家の堺屋太一さんが提唱したのですが、まさにその代表格だと思います。

実は、私の好縁活動としては、春日部地区浦高会、浦高同窓会(常任理事、会報「麗和」編集委員、ホームページ委員)、浦高同窓会、中学同窓会、市役所同窓会、地元の船津会「経営革新塾しよう会」、埼玉を知る会「グループ92」と参加しています。どの会でも、ただの参加者では物足らず事務局や幹事といった役割にいます。私がまとめ役を買って出るのは、少なくとも同窓会の仲間のために何かができたいという思いです。毎週、皆さんが出席して楽しいと思っていただける場を提供していきたいと考えています。集まった人たちの親睦を深めることも大切ですが、せっかくさまざまなネットワークを持っているのですから、もう一歩、それぞれのスキルやネットワークを活かして人のために役立つことができたいと思います。 ※ その時のコミュニケーションツールが、私にとっての「会報」作りだったのです。

◆私にとって地域同窓会とは ⇒ 会員の親睦、参加する意義があるもの

地域同窓会は、地域にあるからこそを兵庫できるものだと思います。それと同時に、地域にいる同窓生が、ああいう活動をしているのならば参加してもいいかな...と思ってもらうことが大切だと考えています。そういう意味では、三輪前会長に背中を押されて始めた地域貢献事業は、大いに意義のある活動だと思います。これからも、会員相互の親睦を図りながら、参加して楽しい、参加することで自分自身も高められる意義のある地域同窓会にしていきたいと考えています。 ※ 地域貢献活動で周囲からの視線も、会員意識の変化も変わりました。それこそが事務局の醍醐味ではないでしょうか?

長時間にわたり、ご静聴ありがとうございました。

春日部地区浦高会 副会長 香田 寛美 拝

◆私にとって地域同窓会とは

⇒ 会員の親睦、参加する意義があるもの

会員相互の親睦を図りながら、参加して楽しい、参加することで自分自身も高められる意義のある地域同窓会にしていきたいと考えます。 【完】